Validation of factors associated with difficult emergency transport in Tokyo under COVID-19 pandemic era: Retrospective observational study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大杉, 一平 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003556

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2749 号

Validation of factors associated with difficult emergency transport in Tokyo under COVID-19 pandemic era: Retrospective observational study

COVID-19 流行時の東京における救急搬送困難事例の要因に関する検証：後方視的観察研究

大杉 一平（おおすぎ いっぺい）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前後の救急搬送困難事案（東京ルール：TR）の原因を比較検討し、救急医療の品質向上を目的とする後ろ向き観察研究である。
【新規性、創造性】日本において COVID-19 流行期は救急搬送数が格段に増加し、各地域での対応に苦慮した。しかし COVID-19 流行前後における救急搬送困難事案を比較した文献はなく、本研究が最初の研究である。よって我々の結果は新たな知見に基づくものである。
【方法・研究倫理】研究は 2010 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの間に順天堂大学練馬病院に TR 事案として搬送されたすべての患者を対象とした。データは電子医療記録のレビューによって収集され、基本情報、人口統計学的特性、臨床及び検査結果の特性を比較して評価した。研究方法は順天堂大学治験審査委員会の承認を得た（承認番号：E22-0471）。
【学術的意義】TR の原因は、COVID-19 流行後に変化しており TR 事案として病院に搬送される患者の特徴も COVID-19 流行後に変化した。具体的には年齢が高く、より重症で、併存疾患のある患者が、COVID-19 流行後に TR となりやすい傾向があった。COVID-19 に関連した症状を示した患者は、COVID-19 流行後に TR になりやすい傾向があった。搬送困難になりやすい傾向を把握することで地域におけるより適切な救急搬送が可能となる可能性がある。
【考察・今後の発展】COVID-19 流行後は高齢化や重症患者が多く、病院に搬送された患者の死亡率が増加したと考える。本研究公開後、行政機関や各医療機関は傾向が認識できるため医療需要の増加に事前に備えることが可能となりうる。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。